

2007年10月23日

兵庫県知事

井戸 敏三 様

兵庫県がん患者会団体等連絡会
世話人代表 中原 武志

「兵庫県がん対策推進計画」に対する要望書

井戸知事におかれましては、県民生活の医療・福祉向上のため日夜ご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。

私たちは兵庫県内のがん患者・家族と患者・家族の支援に取り組む県民でつくる団体が結成した会です。各団体ががん患者や家族への支援、がんに関する啓発活動、よりよい医療を実現するべく医療者との連携などに自主的に取り組んでいるところです。

昨年、がん対策基本法が成立し、この6月には国のがん対策推進基本計画が閣議決定され、がん対策に国を挙げて取り組むことになりました。これを受けて都道府県でも基本計画を策定することになり、兵庫県でも現在「兵庫県がん対策推進基本計画（第3次ひょうご対がん戦略推進方策）」の検討を進められていると聞き及んでおります。

がん対策基本法は、がん患者の意向を尊重した医療の整備を明確に規定しています。がん対策推進基本計画は「がん患者を含めた国民が、がん対策の中心であるとの認識の下、『がん患者を含めた国民の視点』に立って、がん対策を実施していく必要がある」とし、都道府県計画の策定に当たっては「がん患者及びその家族又は遺族の視点も踏まえることが重要である」としています。

ところが、兵庫県の計画策定について県内の患者・家族団体のほとんどが検討の手順や検討内容を知らされておりません。原案を審議する「ひょうご対がん戦略会議」では、委員20人のうち患者・家族の団体から2人が選ばれただけです。これでは、患者・家族の実情や生の声がどこまで計画に反映されるのか、心もとない状況というほかありません。もしもこのまま計画の策定が進められるようならば、結果的に「当事者不在」の計画となるのではないかと、この危惧すら抱かざるを得ない状況です。

がん患者や家族が直面する問題や課題は実に多様であり、患者や家族の視点

を踏まえるには、多くの声をたんねんに聞き取り、反映させていく手順が不可欠であると思われます。患者・家族や支援者の声を真摯にくみ取ってこそ、兵庫県の計画は全国に誇れるものになると確信しております。

患者・家族など当事者の医療への参画は時代の要請です。井戸知事におかれましては「患者中心のがん医療」の実現に向け、私たちの会に結集する県内の団体に対し、がん対策推進基本計画の検討内容を直接、詳細に説明する共同の機会をぜひとも早急に設け、併せて私たちからの提案や意見を聞き取って計画に反映させていただくよう、強く要望いたします。

兵庫県がん患者会団体等連絡会参加団体及び代表名

日本ホスピス在宅ケア研究会	代表	大頭信義
ゆずりは明石	代表	松下秀光
肝炎友の会兵庫支部	代表	山本宗男
ゆずりは	代表	黒田裕子
がんを語る有志の会	代表	橋本榮介
はりま粒友クラブ	代表	中原武志
がん医療を考える市民グループ	代表	中原武志
いづみの会	代表	高出昌洋
あけぼの兵庫	代表	橋本順子
神戸骨髓献血の輪を広げる会	代表	伴 智代
いちごの会	代表	松本ふみ子